



スティーヴ B. メビウス



パートナー

SMAEBIUS@FOLEY.COM

WASHINGTON HARBOUR 3000 K STREET,
N.W. SUITE 600
WASHINGTON, DC 20007-5109
(202) 672-5569



スティーヴ・メビウスは、フォリー・アンド・ラードナー法律事務所の知的財産権法部門のパートナーである。当法律事務所の経営委員会のメンバーであり、ライフサイエンス関連企業専門チームの共同責任者の一人である。また、バイオテクノロジー・医薬プラクティスグループとナノテクノロジー関連企業専門チームにも所属している。弁護士登録をする以前は、米国特許商標庁で特許審査官を務め、バイオテクノロジー関連の業務を担当していた。現在は、知的財産権 (IP) に関連する業務を幅広く取り扱っており、例えば、IP デリジェンスレビュー、法律意見書作成、国際的な特許ポートフォリオ管理、ライセンスング、訴訟、再審査、特許期間延長、インターフェアレンスに関連する業務を手掛ける。

知的財産権分野において、教育活動や執筆活動に積極的に取り組んでいる。東京大学先端科学技術研究センターの客員准教授、ジョージワシントン大学ロースクールで非常勤教授の職を歴任してきた。ジョージワシントン大学ロースクールでは、比較・国際特許法の講座を担当した。東京オフィスのメンバーと連携しながら、定期的に日本を訪れて法律業務を行っている。2002年には、連邦取引委員会/司法省 (FTC/DOJ) 合同で開催された Implications of Competition and Patent Law and Policy と題された公聴会で証言を行った。

ナノテクノロジー分野における活躍としては、業界団体である NanoBusiness Alliance の設立、そして *Nanotechnology Law & Business* 誌の創刊に尽力した。現在に至るまで NanoBusiness Alliance の諮問委員会の委員を務めており、*Nanotechnology Law & Business* 誌の編集委員長の職にある。

コーネル大学 (理学学士号 (生物学専攻)、1989年) およびジョージワシントン大学ロースクール (法学博士、1994年) 卒業。コロンビア特別区およびバージニア州の弁護士資格を有する。連邦控訴裁判所連邦巡回区裁判所、連邦最高裁判所および米国特許商標庁で弁論を行う資格を有する。

同業弁護士の評価に基づき、2007年から2009年には、バイオテクノロジー法分野の *The Best Lawyers in America*® に選出される一方で、2009年には知的財産権分野の *The Best Lawyers in America*® に選出された。また、2006年には、*Washington Business Journal* 誌において、ワシントン特





別区の知的財産権分野のトップ弁護士リストの第2位にランクされた。先天疾患の研究・患者支援機関である CARES 財団の理事も務めている。

取り扱った代表的事件：

- 武田薬品工業株式会社 対 米国特許商標庁長官 (Jon W. Dudas) 事件 (D.D.C. 2007) - 特許再審査から生じた重複特許を理由とする拒絶査定を取り消す決定を下したサマリジャジメントを獲得し、クライアントを勝利に導いた (事件は控訴中)
- Goldenberg & Immunomedics v. Cytogen & C.R. Bard (Fed. Cir. 2004) - 判事の判断が 2 対 1 に分かれた困難な事件で、サマリジャジメントを取り消す決定を獲得し、クライアントを勝利に導いた
- 年間総売上が 15 億ドルにも及ぶ医薬品を対象とする 2 件の特許の再審査事件を担当し、1 年足らずの内にすべてのクレームの特許権取得可能性を支持する決定を獲得した
- ライセンスの初期支払金額が 1 億ドルにもものぼるバイオテクノロジー創薬のライセンシングに関する案件で、買収側企業を代理して IP デリジェンスを実施し、また関連契約書の作成にあたった

論文等：

- “The Surprising Efficacy of Inter Partes Reexamination,” *Patent Strategy & Management*, 2008 (共著)
- “Bayer Highlights Debate on Research Method Use (Patent Won't Cover Fruit of Offshore Research Not Made with the Method),” *National Law Journal*, 2001 (共著)
- “Extending Process Claims From Intermediate to Final Product: Avoiding the Trap of *Eli Lilly v. American Cyanamid*,” *Journal of the Patent & Trademark Office Society*, 1998
- “Novel DNA Sequences and the Utility Requirement: The Human Genome Initiative,” *Journal of the Patent & Trademark Office Society*, 1992